

大分市立長浜小学校 学力向上プラン 1 (8月)

学校教育 目標	自ら学び、共に高め合い、未来を拓くこどもの育成
育成を目指す 資質・能力	活用力・納得解を共創する力の育成

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 単元末テスト(思考・判断・表現)の目標値80点の達成率70%以上に対して、国語は全学年目標を達成しているが、2・3・4・6年の算数と4・5年の理科が目標まで達しなかった。正答率60点未満10%以下は、1年の国語、2年の算数、5年の理科が目標に達しなかった。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 市・県・全国の各種学力調査結果から、本校の結果は市・県・全国平均を上回る正答率であったが、個別にみると、学力の定着に個人差が見受けられる。国語・算数・理科ともに記述問題の正答率が低い傾向がある。また、問題を正しく読み取れず、誤答につながっている傾向も見られた。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) 1学期末に実施した学校生活アンケートの結果において、「授業は楽しい児童」が94%、「授業が分かる児童」が97%であった。また、「自分の考えをすすんで発表(友達に伝える)している児童」が86%、「友だちと話し合うことでよりよい考えをもつことができた児童」が89%という結果は、昨年度の結果より上昇していることから、自分の考えをもち、それを発表したり伝えたりすることへの苦手意識が少しずつ減ってきていることが分かる。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ○教職員アンケート「自分の考えを伝え合う場を設定し、考えを広げ深める授業展開を1日1回以上行っている」では100%だった。「話し合いの系統表」「つながるアクション」を作成し、こどもたちに提示し活用していくことで、教職員の意識が向上し、話し合い活動の充実につながっている。 ○生徒指導の4機能を意識した授業になっているか、個人で掲げた授業改善宣言を月末に振り返り、翌月の改善宣言を作成することで、個々の教職員の授業改善を図っている。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ○教職員アンケート「必要に応じて、個別指導・補充学習を行っている」が100%、「家庭学習の習慣化を図っている」が100%であるが、学力の個人差を解消するために、個別指導・補充学習のさらなる充実を図っていく。 ○納得解の共創を目指し、こどもたちが考えをもち、伝え合う場の設定をした授業を展開するには、学習規律を守らせることが必要不可欠であるため、学期に1回児童に向けて学習規律アンケートを実施し、落ち着いた学習の環境づくりを全教職員で作上げていく。	

学力に関する達成指標

- 単元末テスト(思考・判断・表現)で目標値80点の達成率70%以上。
- 単元末テストの正答率60%未満の児童を10%以下。
- こどもの読書意欲・読書習慣の形成に努める。

今後の 具体的 な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
	〈授業改善のテーマ・重点〉 <テーマ> 確かな学力の定着・向上を図る学習指導と考えの交流の充実 <重点> ・生徒指導の4機能を意識した授業づくり ・こどもたちが考え、討論する授業の構築	
	〈取組内容〉 ・「話し合いの系統表」と「つながるアクション」を活用し、目的や意図を明確にしたペア・グループなどの対話の場の設定を行う。 ・こどもたちが話し合いたい課題の設定と授業展開を工夫する。	〈家庭・地域の取組内容〉 家庭学習の習慣化
	〈取組指標〉 ・こどもたちが安心して自分の考えを伝えられる学級の雰囲気づくりに努める。 ・自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりすることの楽しさや満足感を感じられる場を設ける。	〈家庭・地域の取組指標〉 「家庭学習の手引き」をもとに、毎日こどもへの家庭学習への声かけを行う。
	〈検証指標〉 ・学校生活アンケート「授業が分かる」「授業が楽しい」と回答する児童90%以上 ・学校生活アンケート「友だちと話し合うことでより良い考えをもつことができた」児童90%以上	〈家庭・地域の検証指標〉 学校生活アンケート「家庭学習の習慣がついている」と回答する保護者80%以上
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ・必要に応じて、休み時間や放課後等に個別指導・補充学習を行う。 ・こどもの読書意欲・読書習慣を高めるために、学校図書館支援員との連携を図る。	